ありがとうのプロフェッショナルへ。
兵庫大学

掲載日 2019年12月22日（日） 媒体 神戸新聞/朝刊 掲載面 わがまち25（東播）

まちの活性化 若者目線で

播磨南高生ら30人 ゲーム通じ意見交換

播磨町在住、在学の学生らが地元の活性化について話し合う「播磨町と地域の未来を考える会」が21日、同町役場であった。播磨南高校（同町古宮）と兵庫大学（加古川市）の約30人が、地域の活性化を考えるカードゲームに挑戦しアイデアを出し合った。（小森有喜）



カードゲームを使い、地域活性化について話し合う学生ら＝播磨町東本荘1

「楽しみながら魅力気付けた」

もっと播磨町

若い世代にまちづくりについて考えてもらうきっかけにしようと、町などが主催した。地域の特徴や見どころを紹介する映像を見た後、6人ずつのグループに分かれ、町民有志が考案したカードゲーム「ハリマ・トゥ・ザ・フューチャー」を体験した。

ゲームは、町民の困り事に対して、町内の施設や人、サービスなどが書かれた「お宝カード」を組み合わせ、解決策を出し合う内容。「保育園に子どもを迎えに行く時間を確保するのが大変」という困り事に対しては、兵庫大の学生が「タクシー」「100円」というカードを組み合わせ、「子どもの送迎に100円でタクシーを利用できる制度をつくる」と提案した。

ほかにも「家庭菜園の野菜を集めて子ども食堂の食材に使う」や「昼間の居酒屋を利用して子育てサークルを開く」といったアイデアも出された。清水ひろ子町長や町職員らも輪に入り、積極的な意見交換が続いた。

同大社会福祉学科1年の桂陸斗さん(18)＝同町宮北＝は「播磨町についてこんなに真剣に考えたのは初めて。楽しみながら、地元の魅力に気付くことができた」と話していた。